

一、次の文章をよく読んで問いに答えなさい。

※ 学校内外ではマスクをつけて生活するようにと強制されている中で、男子五人「ユウ(ぼく)、トモノリ、リョウタ、シンちゃん、アツシ」の内、アツシ以外の四人は体育館の裏で、こっそりマスクをはずすことを始める。学校内で、マスクをはずす解放感とスリルを楽しむユウたちであったが、それに加わりうとしないアツシにいらだちを感じたトモノリたちはアツシを無視し始める。「何か事情があるのでは」と考えたユウがアツシにその理由をたずねると、アツシは涙目で「おばあちゃんが死んだら……おれのせいになっちゃうから」と答えた。

その夜、アツシのお母さんからウチのお母さんに電話がかかってきた。

長電話になった。ぼくにはウチのお母さんの声しか聞こえない。最初は驚いた相槌が多かったけど、(A)ため息が交じるようになって、最後のほうは、アツシのお母さんを慰めたり励ましたりしているようだった。

電話を終えたあと、お母さんはぼくの部屋に来て、「伝言だけど、アツシくん、ユウに謝ってたって」と教えてくれた。

「せっかく遊びに誘ってくれても、(B)断ってるから、ごめん……って」

逆だろ、それ――。

謝るのは、こっちのほうだ。アツシが嫌がってるのにしつこく誘ったり、誘いに乗らなかったら無視したりして……サイテーだ。

「アツシ、今日、おばあちゃんの話をも(C)してたんだけど」

「そうそう、そのことだったの、電話も」

アツシのウチは、両親とアツシの三人暮らしだった。でも、先週から母方のおばあちゃんが同居することになった。

「(D)じゃなくて、春までなんだけどね」

おばあちゃんは、雪の多い東北地方の田舎で一人暮らしをしていた。冬は雪かきや屋根の雪下ろしが大変だし、凍てつく寒さは体にもこたえる。高血圧や糖尿病や白内障などの持病があるので、病院通いが欠かせない。雪道での車の運転はきけんだけど、バスろせんは何年も前に廃止になってしまったので、自分で運転するしかない。

「あと、ウイルスのこともあるでしょ。糖尿とか高血圧って、重症化するリスクが(E)高いっていうし」
人混みの「密」がない田舎ならだいぶ、というわけでもない。

「家と家は離れてても、病院のまちあいしつなんて、日によってはベンチに座れないこともあるぐらいなんだって。だから田舎の病院とか介護施設で集団感染が起きちゃうわけ」

1 アツシの両親は、おばあちゃんに東京に来てもらうことにした。

「最初はお母さんが実家と東京を半々で行ったり来たりするのも考えたらしいんだけど、やっぱりアツシくんも不自由しちゃうし、東京から田舎に行くと、ウイルスを持ってきたとか、いろいろ言われちゃうから……」

ぼくもニュースで観たことがある。都道府県をまたいだ移動を自粛するように言われたり、車のナンバープレートがチェックされて、よその都道府県の車に「帰れ」という紙が貼られたりしていた。

「まあ、それで、冬の間はおばあちゃんが同居することになったわけ」

アツシの家のまどりを思い出してみた。3LDKのマンションだから、家族が一人増えてもなんとかなるかな……とうなずきかけて、あ、違う、と訂正した。

ウイルスが流行してから、アツシの両親がつとめる会社はどちらもテレワーク中心になって、いまでも出社は週に半分以下だという。大事な会議もあるので、リビングやダイニングではなく、使っていなかった一部屋を仕事用にした。おかげでアツシの部屋で遊んでいても、日によっては「いま父ちゃんが会議してるから」「母ちゃんが打ち合わせ中だから」と、大きな声を出せなかったのだ。

そこに一人増えるわけだから――。

やっぱり大変なんだろうなあ、とため息をついた。

「アツシくんは喜んでるのよ」

「そうなの？」

「ちっちゃな頃から、おばあちゃんに可愛がつてもらってて、夏休みやお正月に田舎に帰ったときは、ずーっとおばあちゃん2の部屋で寝泊まりしてたんだって。だから、おばあちゃんがウチに来ることになって、すごく喜んで、張り切ってるの」
だったら、まあ、いいか……またすぐに、違う、と思い直した。

よくない。昼間のアツシの赤く潤んだ目がよみがえる。あいつがぼくたちと遊ばなくなった理由がやっとわかった。

「だから、アツシくん、絶対におばあちゃんにウイルスをうつしちゃいけない、って……がんばりすぎるぐらい、がんばってるんだって。ウチでごはん食べるときも、おばあちゃんとおしゃべりしたいのに黙ってて、手洗いなんで一日に何回も何回もするから、指がふやけそうになっちゃって」
わかる。

3 あいつ、おとなしいけど、けっこう気合と根性のあるヤツだから。それに優しいし。

「おばあちゃん、三月の卒業式まで東京にいらんだって。だから、もしかしたら卒業するまで、いつもみたいには遊べないかもしれないけど、ごめんね、わかってあげてね、って……アツシ君のお母さんからの伝言」

「……そんなのわかってる、って」

「中学に入ったら、また、いままでのぶんも取り戻して遊ばいいんだから」

いままでのぶんも取り戻して——？

じゃあ、三年間だ。三年間ずつとがまんしてきた。それを取り戻せるのは何年後？ オトナになってたりして。オトナになってもマスクだったりして。

玄関のチャイムが鳴った。お父さんが仕事から帰ってきた。お母さんは「はいはい」と廊下に出た。

部屋に残ったぼくは、机の上に置いていたマスクを手にとった。

アツシは、トモノリやぼくたちがマスクを取ったことを、お母さんに言いつけなかった。

その話をすれば、アツシがぼくに謝るところか、ぼくたちみんなに謝らせることだってできたはずなのに。

マスクの紐を耳にかけた。不織布のプリーツを少し広げて顎まで覆い、ノーズフィットのワイヤーをまげて鼻の両脇の隙間をふさいで、できあがり。

カーテンを開け、窓ガラスをかがみにして、マスク姿をうつした。笑ったり怒ったりしても、表情の違いはよくわからない。いま、泣きそうなのに。

窓にうつるぼくは、顔の下半分を隠されたまま、ただ(F)突っ立っているだけだった。

(重松清『おくることば』『反抗期』)

問一 ——— a h の部分を漢字に直しなさい (送り仮名が必要なものはそれも書くこと)。

問二 (A) (F) に入る最も適当なことを次の中から選んで、記号を書きなさい (同じ記号は二度以上使いません)。

A いつも イ かなり ウ ずつと エ しだいに オ チラツと カ ぼうつと

問三 ——— 1、それはなぜですか。①おばあちゃんに関することは三つにまとめて、②アツシやアツシのお母さんに関することは二つにまとめて、それぞれできるだけ文中のことは使って答えなさい。

問四 ——— 2、①なぜぼくは「まあ、いいか」と思ったのですか。②どういうことに気づいたから、ぼくはすぐ「違う」と思い直したのですか。

問五 ——— 3、おばあちゃんに対する「優しさ」とは別に、アツシのぼくたちに対する「優しさ」はどういうことからわかりますか。できるだけ文中のことはを使って答えなさい。

問六 ——— 4、なぜ「泣きそう」になったのですか。その理由の一つとして考えられることを文中から三十五字ぬき出して次の文を完成させなさい。

事情も知らずに、(

)したことを申しわけなく、情けなく思ったから。

二、次の文章をよく読んで問いに答えなさい。

だいぶ以前に、農学^aせんもんのある先生から興味深い話を聞いたことがある。

その先生が留学していた頃^{ころ}、アメリカで人間の動物観を研究するというプロジェクトがあった。そのやり方は、例えば「一番美しい動物は何か」といったような質問を並べてアンケート調査を重ね、その答えが年齢^{ねんれい}、性別、職業、宗教^b、みんぞくなどでどのように違うか調べるのだという。

このことを聞いて、それは面白^{おもしろ}そうだから日本でも同じような調査をしようという話になった。うまく行けば日米比較文化論になるかもしれない。(A) さっそく^cこころみ^dたのだが、これがどうもうまく行かない。アメリカなら「一番美しい動物は」ときけば、すぐ「馬」とか「ライオン」とか、何か答えが返って来る。ところが同じ質問を日本人にすると、「さあ、何だろうな」とはなはだ歯切れが悪い。そこを無理に、何でも一番美しいと思うものを挙げてほしいと言うと、「そうだなあ、夕焼けの空に小鳥たちがばあっと飛び立っているところかな」といったような答えになる。「これでは比較は無理だから、結局諦^{あきら}めました」とその先生は苦笑していた。

私がこの話を聞いて興味深いと思ったのは、それがア^dのさい以上に、日本人とアメリカ人の美意識の違いをよく示すものと思われたからである。

アメリカも含めて、西欧世界においては、古代ギリシャ以来、「美」はある明確な秩序^{ちつじょ}を持ったもののなかに表現されるという考え方が強い。その秩序とは、左右相称性であったり、部分と全体との比例関係であったり、(B) 基本的な幾何学形態との類縁性など、内容はさまざまであるが、(C) 客観的な原理に基づく秩序が美を生み出すという点においては一貫し

ている。逆に言えば、そのような原理に基づいて作品を制作すれば、それは「美」を表現したものとなる。

てんけいてきな例は、現在でもしばしば話題となる八頭身の美学であろう。人間の頭部と身長が一对八の比例関係にあるとき最も美しいという考え方は、紀元前四世紀のギリシャにおいて成立した美の原理である。ギリシャ人たちは、このような原理を「カノン(規準)」と呼んだ。「カノン」の中身は場合によっては変わり得る。現に紀元前五世紀においては、優美な八頭身よりも莊重な七頭身が規準とされた。だが七頭身にせよ、何がある原理が美を生み出すという思想は変わらない。ギリシャ彫刻の持つ魅力は、この美学にゆらいどころが大きい。

もつとも、この時期の彫刻作品はほとんど失われてしまつて残っていない。残されたのは大部分ローマ時代のコピーである。しかししばしば不完全なそれらの模刻作品を通して、かなりの程度まで原作の姿をうかがうことができるのは、美の原理である「カノン」がそこに実現されているからにほかならない。原理に基づいて制作されている以上、彫刻作品そのものがまさしく「美」を表すものとなるのである。

(D)このような実体物として美を捉えるという考え方は、日本人の美意識のなかではそれほど大きな場所を占めているように思われない。日本人は、遠い昔から、何が美であるかということよりも、むしろどのような場合に美が生まれるかというところにその感性を働かせて来たようである。それは「実体の美」に対して、「状況の美」とでも呼んだらよいであろうか。

例えば、「古池や蛙飛びこむ水の音」という一句は、「古池」や「蛙」が美しいと言っているわけではなく、もちろん「ウ」が妙音だとしゅちようしているのでもない。ただ古い池に蛙が飛びこんだその一瞬、そこに生じる緊張感を孕んだ深い静寂の世界に芭蕉はそれまでにない新しい美を見出した。そこには何の実体物もなく、あるのはただ状況だけなのである。

日本人のこのような美意識を最もよく示す例の一つは、「春は曙、やうやうしろくなりゆく山ぎはすこしあかりて……」という文章で知られる『枕草子』冒頭の段であろう。これは春夏秋冬それぞれの季節の最も美しい姿を鋭敏な感覚で捉えた、いわば模範的な「状況の美」の世界である。

(中略)

実際、清少納言が的確に見抜いたように、日本人にとっての美とは、季節の移り変わりや時間の流れなど、自然の営みと密接に結びついている。そのことは江戸期に広く一般たいしゅうのあいだで好まれた各地の名所絵を見てみればよくわかる。

名所絵とは、文字通りそれぞれの土地において見るべき場所、訪れる価値のある所を描き出したものだが、単なる場所ではない。例えば、広重のばんねんの名作『名所江戸百景』を見てみると、雪晴れの日本橋とか、花の飛鳥山など、季節ごとの自然と一つになった情景が描き出されている。事実この連作シリーズは、まとまったかたちとしては、春夏秋冬の四部に分類されている。しかしそのように分類したのは広重ではない。広重は、江戸のなかの見るべき場所を、特に順序立てずに、いわば思いつくままばらばらに描き出して行った。それがこうひようであつたので、次々と続けて、百十八点まで描いたところで彼は世を去った。その後版元が、別の画家に追加分を一点と扉絵の制作を依頼し、あわせて計百二十点の「揃物」として刊行したが、そのときに内容を四季に分類したのである。ということは、当初ばらばらに描いた「名所」が、いずれも季節の風物や年中行事と結びついていたので、自ずから分類が成り立ったということである。(E)名所そのものが、江戸の町と自然との結びつきによって生まれて来たのである。

かつての名所絵がそうであつたように、今日でも人々は、旅をするとその記念や土産ものとして、土地の観光絵葉書を買求める。パリやローマに行くと、土産物屋の店先にさまざまな絵葉書が並んでいるが、そのほとんどは、ノートルダム大聖堂とか、凱旋門とか、エッフェル塔など、代表的なモノユメントをそのまま捉えたものである。だが日本の観光絵葉書を見ると、満開の桜の下清水寺とか、雪に覆われた金閣寺など、季節の粧いをこらしたものが圧倒的に多い。もちろん、清水寺も金閣寺も、それ自体見事な建築だが、観光写真はそのに自然の変化を組み合わせることを好むのである。それもまた、「状況の美」を愛する日本人の美意識の表われであろうか。

(高階秀爾『日本人にとって美とは何か』)

注1 「古池や蛙飛びこむ水の音」 江戸時代の俳人松尾芭蕉の俳句。なお、「蛙」はカエルのこと。

注2 「春は曙」 現代語に直すと「春は夜が明けようとする頃が美しい……」。『枕草子』は平安時代の清少納言の作品。

注3 広重 歌川(安藤)広重、江戸時代の画家。 注4 揃物 いくつか揃って、あるひとつのまとまりになるもの。

問一 — a jの部分の漢字に直しなさい(送り仮名が必要なものはそれも書くこと)。

問二 (A) (E)に入る最も適当なことを次の中から選んで、記号を書きなさい(同じ記号は二度以上使いません)。

ア だが イ つまり ウ あるいは エ なぜなら オ というわけで カ いずれにしても

問三 ア ウ に入る最も適当なことを文中からそれぞれ三字ぬき出して答えなさい。

問四 — 1、「それ」の指し示す内容をできるだけ文中のこのばを使って答えなさい。

問五 ——— 2、なぜアメリカ人と日本人の答えにはこのような違いが出るのですか。次の (ア)、(イ) に入ることばをそれぞれ文中から四字ぬき出して答えなさい。

アメリカ人は美を (ア) として捉えるのに対して、日本人は (イ) として捉えるから。

問六 ——— 3、「客観的な原理に基づく秩序」の例として筆者は三つのことを挙げています。その三つを文中からぬき出して答えなさい。

問七 ——— 4、これは日本人がどのような態度で「美」を見出してきたからだと筆者は考えていますか。その理由が書かれている一文の、はじめと終わりの五字をぬき出しなさい。

問八 ——— 5、筆者は日本の美の説明に、広重が描き出した《名所江戸百景》の中の「雪晴れの日本橋」「花の飛鳥山」を例として挙げていますが、この①《名所江戸百景》、②「雪晴れの日本橋」「花の飛鳥山」は、現代に置きかえると何に当たると言っていますか。それぞれ文中からぬき出して答えなさい。

問九 ——— 6、「そのように分類した」のは誰ですか。

問十 ——— 7、どのようなものが「代表的なモニュメント」となっているのですか。文中から五字ぬき出して答えなさい。

三、() に動物の名前を入れて、慣用句を完成させなさい (平仮名でもよい)。

《意味》

- ① 非常にいそがしいこと。
② 意気投合すること。
③ 誰も相手にしないこと。
④ 周囲を取り囲まれて、にげられないこと。
⑤ 突然のことに驚いて、目を丸くしているさま。
⑥ 物事をよく考えずに、そのまま受け入れること。

《慣用句》

- () () の手も借りたい
() () が合う
() () も食わない
袋の ()
() () に豆鉄砲
() () の呑みにする

受験番号	

※この用紙には受験番号と解答以外は一切書いてはいけません。 ※句読点やその他の記号も一字と数えます。

問一	問二	問三	問四		問五	問六
f a	A	①	②	①		
	B					
g b						
	C					
	D					
h c						
	E					
	F					
d						
e						

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十
f a	A	ア		ア			①		
	B								
		イ							
g b				イ					
	C						②		
	D	ウ							
h c									
	E								
i d									
j e									